

団長の稽古日記

「初日」

ついに初日を迎える。

気温は3度、寒いけれど清々しい朝。

いつものように平野カーに乗りこみ、エンジンを掛けるのとはほぼ同時くらいに、今回はBluetoothに繋いだスマホを用いて、車のスピーカーから流れるハウンドドッグの「フォルティシモ」を流す。

今回で44回目の初日となるのだが、25、6年前の第1回公演の時から、初日の朝は必ずこの曲をまずは流し、気分を入れ替えている。

「激しくたかぶる夢を眠らせるなあ〜あふれる思いを、あきらめはしない。」

歳を重ねるにつれ、ついつい忘れがちになるこの言葉、そうだ！諦めない！

発声練習を兼ねて、曲に合わせて大きな声で歌いながら劇場へ。

集合時間の午前9時前、劇場ロビーには全メンバーが顔を揃えている！みんな元気で何より。ホントにそこが一番大事。

午前9時20分、舞台上に出演者、各スタッフさん全員集合し、毎回の恒例行事である「成功祈願」から。

舞台セットに設置した今年の正月にいただいた「明治神宮」のお札(おふだ)を全員で囲み、アマティアズの祝詞に合わせて、首を垂れ、願うはひとつ！「無事、成功しますように」。

午前9時30分、昨日の続きで2幕幕開きから(幕はないけど...)フツと携帯の万歩計を見たら、昨日は18000歩も歩いている！うそ！ほぼ1日中劇場にいたんだよ。

移動は全て車だし...私は劇場内をそんなにウロウロしてはいたんだねえ。その中でも一番動いたのが、「場当たり」。

演出家は通常「場当たり」になると、客席に設けた演出席にドン！と腰掛け、マイク(通称・ガナリマイク)を用いて客席の暗闇の中から、舞台上の役者、スタッフに、その都度その都度、指示を出すもの。なんだけど、私は「場当たり」が始まるとじっとしてはられない。

客席の一番前に行ったり一番後ろに行ったり...客席のどの席から、どんな風に見えるのか？役者のセリフが聞こえているのか？チェックしつつ、照明のバランス、色合い、音響のレベル等も、神経質に客席をウロウロしながらチェックする。

...かと思えば舞台上の上手、下手の袖に現れ、また客席に戻り、音響さんや照明さんのブースへ。

今回、照明ブースは客席の一番後ろの席から近いところにあるので、照明さんへの注文もガナリマイクは使わず、客席の一番後ろに行って、窓越しではあるけれど、照明ブースで大塚さんと話をする。一応は「ガナリマイク」は持ち歩きながらのチェックではあるけれど、私が自ら動くので、ほとんどマイクは使わない。

2幕も1幕同様、幕開きというのはかなり神経を使う。

2幕というのは、休憩されてお席に戻られたお客様のお気持ちを、またグッ！とお芝居の世界に導かねばならないのでここは重要！私は静かに客席に腰掛け、開始を待っていると、BGMとして客席に流れていた曲が徐々に大きくなり、それと同時に場内も暗くなり、舞台上に明かりが入り、2幕が始まった。

客席からその様子をチェックしていたけれど、ダメが通ったのか？とてもいい感じ。特に問題なく、次のシーン、その次のシーンと場面転換に絡む照明、音響、舞台

転換は順調に進むが、上、下手の前方から各役者達がグループに分かれて登場するシーンでは、役者が階段を上がるタイミングや、立ち位置等の修正があったのと、老人ホームから居酒屋への転換が、

相変わらず、稽古場で行った通りにはいかず、色々と手順等を見直すのに多少の時間を要した。

しかしその後は順調に進み、予定よりも早くに場当たりが終わったので、変更した場面転換の稽古を行い、こちらも大きな問題もなく無事終了。

約1時間ほどの休憩後の午後2時、これまでの集大成となる「ゲネプロ」を開始。ゲネプロとは最終リハーサルの中で、本番と全く同じに行く。本番と全く同じなので、どんな事があるうとも芝居を止めるなんて事は絶対にはいけない。

照明、音響、舞台スタッフ、そして役者と、どのメンバーも真剣勝負に挑む顔。

1ベル、アナウンス、2ベル、そして演奏が始まる...その幕開きの様子を客席から見守るが、とっってもいい感じ。

いやあほんとにスタッフの皆さん、ありがとう〜って感じ。

役者の早替えは問題ないとの事。

恐いくらい順調に大きな問題もなかったが、芝居に関してはテンポが悪いし、トチリもある...かなり不安を残してゲネプロは終了した。

ゲネプロ終了後、役者は舞台上に残り、プロカメラマンの平野さん(アマティアズのお兄様)のすげえカッコいいカメラを使っ

ての集合写真撮影。そして受付スタッフの皆さんに劇場内に入っていただき、こちらも恒例となった「1、2、3、ダァ〜」の掛け声とともに、

右手を天に向かって突き上げる「アントニオ猪木ポーズ」を、出演者、受付スタッフさん達と大きな声で叫び、みんなで心をひとつにしたところで、軽い食事をとるメンバーもいれば、瞑想するメンバー、

かるく身体を動かすメンバー等、初日の緊張を和らげようと、各自が思い思いの時間を過ごす。

スタッフさん達は、本番に向けての様々な最終確認を行い、やがて静まり返った舞台上から舞台監督さんの「お客様のご入場です」の声で劇場中に響き渡るのありました。